白瀑神社の例大祭

8 月 1 日に白瀑神社で開催される祭りは、祭りの最後に神輿（持ち運び可能な神殿）を 17 メートルの滝の下で担ぐという珍しい形で締めくくられる祭りである。

もともと八峰町の住民は、もっと典型的なやり方で祭りを行っていた。つまり、神輿の担ぎ手たちは身を清めて本殿で祈りを捧げた後、他の人が神に祈りを捧げられるよう神輿を担ぎ町の通りを巡行していた。そして巡行が終了した後、祭りの参加者たちが神輿を白瀑神社に戻し、祭式を終了していた。しかし、ある猛暑の夏、担ぎ手たちは神社の後ろの滝で神輿を担いだまま涼をとった。そしてこの滝浴びはとても活気があったため、祭りにずっと取り入れられることとなった。現在では、担ぎ手たちは滝つぼで円を描き、滝の下を通り抜けてから川岸に戻る。

この祭りは、伝統を忠実に守っているという点においても珍しい行事である。参加者は男性のみであり、白装束を身につけなければならない。白色は日本の宗教における清らかさの象徴である。多くの祭りとは異なり、祭りで恒例の食べ物の販売やゲーム屋台は前日に撤去される。神輿を担いで町内を練り歩き、滝に入ることが祭り当日に行われる唯一の行事であり、宗教的な儀式と世俗的なお祭りが明確に分けられている。